

# 内視鏡検査チームが取り組みを発表！ ～九州内視鏡技師研究会～

令和4年12月3日に第82回九州消化器内視鏡技師学会が熊本市国際交流会館で開催されました。今回、当院の消化器内視鏡技師である辻由美子さんがワークショップで発表しました。

ワークショップのテーマは  
「クリニックにおける大腸検査の現状と課題～前処置から治療後ケアまで～」

当院を含む5つのクリニックが、下剤や腸管洗浄剤の割合、日帰り治療の基準や治療後のケアなど、それぞれのクリニックでの手法などを発表し、意見交換を行いました。



消化器内視鏡検査の様子

当院の検査実績は下表の通り。  
コロナ禍にあっても、検査件数が増加しました。

検査件数実績	2021年	2022年
上部消化管内視鏡検査	882	1021
下部消化管内視鏡検査	419	305
内視鏡的ポリープ切除術	183	297
計	1484	1623



辻由美子  
消化器  
内視鏡検査技師

今回、第82回九州消化器内視鏡技師学会に演者として参加してきました。学会での発表は初めてで、とても緊張しましたが今後の課題を見つける上で、大変貴重な経験をさせていただきました。九州各地の他施設様の発表もとても素晴らしく、内視鏡検査における情報共有や意見交換する場ともなり、私自身とても刺激を受けました。

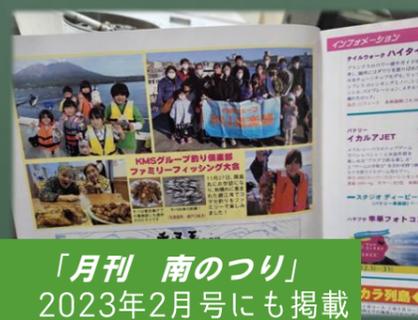
今回の学びを活かして、今後も患者様お一人お一人に寄り添い、安心して検査を受けていただけますよう努めていきたいと思っております。

## ♡事業所の垣根を超えて、家族で参加♡ KMS釣り倶楽部

釣りが好きなスタッフを中心に活動している釣りサークルがあります。スタッフの家族も一緒に楽しむ錦江湾での船釣り。休日に大海原へGO！気分転換にも家族サービスにも最高です！



この日の釣果はサバが60匹。  
子ども達も大満足の日。  
次回は何が釣れるかな？



「月刊 南のつり」  
2023年2月号にも掲載  
されました！

医療法人聖祥会  
かわもと記念クリニック  
KMSグループの広報誌

Vol.  
3

2023年 春号

# SMILE

～笑顔と健康のために～



Yoshidome Rehab Staff

### CONTENTS

- 日曜祝日・夜間外来診療の休止
- 新型コロナ第8波との闘い～発熱外来の看護師レポート
- 深掘り！外来リハビリテーション
- 肝臓内科の紹介
- 在宅医療の強化へ
- 内視鏡検査チームが取り組みを発表！～九州内視鏡技師研究会

【発行・企画】

医療法人聖祥会 かわもと記念クリニック

〒892-0871 鹿児島市吉野町5397-3

☎ (099) 243-5500 FAX (099) 244-5457

ホームページURL <http://www.kawamoto-cl.or.jp>



# ごあいさつ ～働き方改革による大きな変革～

## 日曜祝日外来・時間外の外来診療の休止 かかりつけ医として対応いたします

「吉野に24時間365日対応の外来診療を」という思いで、令和元年より3年間、日曜祝日と夜間も診療ができる体制をとってまいりました。この間、新興感染症との闘いもあり、夜間、日祝にも対応した発熱外来や検査へ対応することで、地域の皆様にも当院の24時間365日という体制がお役に立てたのではないかと考えております。



理事長  
川本 研一郎

新型コロナと戦いに一区切りという今、医療業界には、新しい大きな波が押し寄せております。国の進める働き方改革により令和6年4月から医師にも時間外労働の上限規制などの改革が適用されることとなり、日祝や夜間診療に対応する医師の確保が極めて困難となりました。令和6年を前にして、すでに医師の時間外労働や宿日直の勤務状況を改善するよう取り組まなくてはならず、診療体制を大きく見直さざるを得ない状況となってしまいました。このため、令和5年4月よりこれまでのような日祝診療と時間外診療を行うことができなくなりました。「24時間365日外来診療する!」という当院の方針を掲げ、スタッフとともに勇往邁進してきただけに苦渋の決断となりましたが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

当院のもう一つの柱である「在宅医療」においては、令和4年5月より「機能強化型在宅療養支援診療所(単独型)」となりました。訪問診療、往診、訪問看護におきまして、今後も24時間365日対応できる体制を更に強化してまいります。緩和ケアやインスリン管理、胃ろう交換、気管切開管理など、在宅でも安心して暮らせますよう、またご家族の負担軽減なども含め、当院に入院できるようバックアップをしております。

検査につきまして、当院には常勤、非常勤合わせて5名の「日本消化器内視鏡学会 認定消化器内視鏡専門医」がおります。また、「日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡技師」も在籍し、検査と治療の介助や補助業務を行っていますので、より安心して検査を受けていただけるよう努めております。腹部エコーなどの検査も日本超音波医学会認定超音波検査士(消化器領域・循環器領域・泌尿器領域・検診領域)が対応いたします。スタッフそれぞれの専門領域を極め、技術の向上を図り、お一人お一人に丁寧に向き合うことにより、「また次も診てもらいたい」と思っただけの医療サービスを提供してまいります。

## KMSグループ

- かわもと記念クリニック
- 通所リハビリテーションゆうゆう
- 訪問リハビリテーション
- 訪問看護ステーションふわりむ
- グループホームゆうかり
- あいる居宅介護支援事業所
- 企業主導型保育園ピナス保育園
- 運動型通所介護now more
- 機能改善施設 リジューベKMS
- デイサービス ふれあいステーション愛
- 訪問介護 介護支援センター愛
- グループホーム愛愛
- 住宅型有料老人ホーム 愛の苑
- ノベル鍼灸整骨院

# 新型コロナ第8波との闘い ～発熱外来の看護師レポート

令和4年12月から感染が拡大した第8波。当院の発熱外来の受診者も増加しました。

他院との比較により当院の発熱外来の稼働状況が分かるのが右のグラフです。昨年10月から12月の3か月間でコロナ患者610人を診察した当院は、鹿児島市内医療機関(鹿児島市医師会病院外来感染対策向上加算連携医療機関)の中でも突出しています。

1月に入ると午前受診者だけでも30人を超える日もあり、電話が繋がりにくく、対応に苦慮する状態となっていました。特に気を揉んでいたことは、かなりの待ち時間が生じてしまうことでした。

通常外来患者さまの対応を行いながら、発熱外来の患者さまの対応をしています。発熱外来の診療にあたるため、防護服の着脱を毎回行うことから、医師も看護師も事務員も時間とどうしても手間がかかってしまいます。

患者さまの「まだ時間かかるの?」「いつになるの?」という不満のお声も多数いただきながら、「私たちが今できることは何か」とスタッフ間で何度も話し合いを重ねました。発熱外来の対応を、「時間や人数で区切る、記録事項のフォーマットの作成や簡略化する」など積極的に取り組みました。感染拡大が長期にわたり、スタッフの感染者も出て人員が少なくなり疲弊していく中で、試行錯誤しながら対応してまいりました。

年明け1月1日と2日に休日当番医であったため、発熱外来だけでも1月1日に40人、1月2日に55人の診療にあたりました。

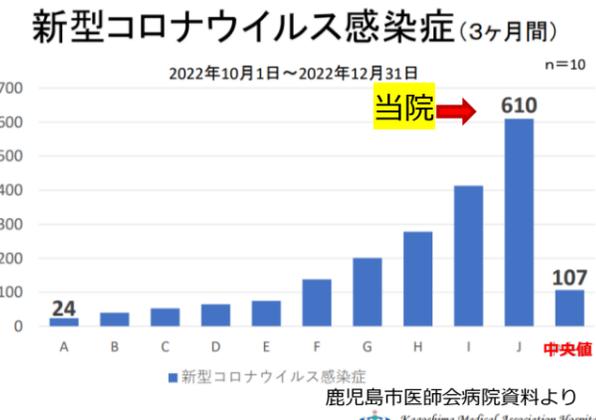


今年の冬はインフルエンザの同時流行もあり、同時に検査も行いました。

第8波。度重なる感染拡大ですが、その都度感染の様相が変化し、検査キットなどの不足も生じるため、状況に合わせて受付、問診、発熱外来での診察、検査、検査結果の伝達、保健所への報告において、業務手順などを見直していかなければならず、対応に混乱をきたすこともありました。その中で度々メディアの取材に応じ、発熱外来の現場の窮状をお伝えしてまいりました。

感染拡大時に平時より注力したことは、外来と病棟、訪問看護の連携です。検査の実施や陽性者の把握などを迅速に行うようにしました。ピーク時には当院でも出勤できない職員が増加し、さらに入院の受け入れが困難な状況も生じましたが、訪問看護で対応することで何とか急場をしのぐことができました。

令和5年5月8日から新型コロナも5類に移行しますが、今後もこの経験を活かし様々な状況の変化に対応しながら、感染拡大時には速やかに発熱外来を稼働させることで地域医療に貢献できるよう努めてまいります。



かわもと記念クリニック  
発熱外来の患者数(1日平均)

令和4年12月  
**23.9人/日平均**

令和5年 1月  
**29.1人/日平均**

1月1日・40人/日  
1月2日・55人/日  
1月8日・**61人/日** ← 第8波ピーク時

深掘り!

# 外来リハビリテーション

## 外来リハビリってどういうもの?

外来リハビリテーションは、医師の診察の下、リハビリ治療が必要と判断された場合に利用できます。当院でも整形外科 松永医師（火・水・金）を中心に外来におけるリハビリ処方をされる患者様が多くいらっしゃいます。リハビリ中は痛みや姿勢など身体機能の状態をしっかりと評価を行い、患者様に応じた機能訓練や、運動療法、生活動作指導等のリハビリテーションを提供しています。

当院では、理学療法士、作業療法士といったリハビリの専門職による充実した機能訓練を行っています。

## リハビリの対象になる方は? (脳血管疾患等リハ・運動器リハ)

### ■脳血管疾患等リハビリ

脳梗塞、脳出血、脳腫瘍、脊髄損傷、パーキンソン病など

### ■運動器リハビリ

骨折、四肢の切断、上下肢の骨・筋・腱・神経・血管などの損傷、関節の変性疾患、関節の炎症性疾患、関節拘縮、末梢神経損傷、スポーツ障害など

## リハビリに潜入

### 1 床上リハビリ

病名に基づき、立位や座位の姿勢、寝返り・起き上がり・立ち上がり・歩行などの基本的な動作や関節の動き・筋の硬さを確認します。必要に応じて筋リラクゼーションや筋膜リリース、関節モビライゼーションや関節可動域訓練、筋力トレーニングなどを行います。



### 2 マシンを使って筋力トレーニング

当院の目玉であるトレーニングマシンを使った運動療法です。理学療法士や作業療法士が徒手アプローチや動作評価によって提案したトレーニングを、運動目的や使用する筋肉のアドバイスを入れながら実践していきます。



### 3 生活動作や姿勢の指導

自宅で取り組める姿勢の改善を指導しています。



## 外来リハビリの流れ

※予約制ですが、可能な限り対応いたします

1. 受付 → 2. 診察

3. レントゲン等の検査・診察  
医師のリハビリ指示

4. 看護師がリハ室へ案内

5. リハスタッフの問診  
リハビリ同意書の記入

6. 身体機能評価・徒手アプローチ  
物理療法（温熱療法や電気療法）  
器具トレーニング・自宅でのトレーニング指導

スタッフとのマンツーマンのリハビリは基本的に20分または40分です。

7. 次回のご予約

※リハビリの際に次回のご予約を受け付けております。お電話でも対応いたします。

8. 会計



鍼灸整骨院との違いは?

- ✓リハビリテーションは、運動療法と物理療法を主軸とした治療です
- ✓ご自身の**身体の使い方**を学んで頂き、痛みの軽減や再発防止につながります
- ✓筋肉の緊張を和らげ、柔軟な動きを獲得するためにリラクゼーション手技を行うこともあります



### その痛み、私たちにお任せください!

動作評価や手技アプローチなどから  
お一人お一人に合ったプログラムで  
自宅でもできる運動をお伝えします!

## ご利用者の声

以前より内科を受診していましたが、指や腰の痛みを相談したら整形外科でのリハビリを勧められました。体の仕組みや筋肉の動きを教えてもらいながら自宅で7種類の運動をしています。杖もつかず歩けるようになり、姿勢もよくなり、家族からも褒められました。



スタッフによる個々に合ったリハビリを皆様に実践頂いています。また、生活環境なども伺い、環境整備のアドバイスをいたします。当院の診療科との連携を図っておりますので、何でも安心してご相談ください。

# 肝臓内科の紹介

当院では、常勤非常勤合わせて2名の「日本肝臓学会 肝臓専門医」が、肝疾患などの治療を行っています。

肝臓の主な病気としては、ウイルス性肝炎、肝硬変、アルコール性脂肪肝、NAFLD/NASH（非アルコール性脂肪性肝疾患/非アルコール性脂肪肝炎）、薬剤性肝炎、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変、硬化性胆管炎、肝がん等があげられます。肝炎とは肝臓の細胞が壊れてしまった状態です。

肝臓は重症化するまで自覚症状があらわれないことが多く、“沈黙の臓器”と呼ばれています。

からだのだるさや食欲低下、むくみや腹水、黄疸が現れるころには、肝臓の機能がかなり低下してしまっていることも少なくありません。早期に適切な検査と治療を行うことが大切です。



肝がんの原因の約80%が肝炎

## 肝臓の検査について

肝臓の検査は、血液検査や画像検査を行います。また、肝炎ウイルス感染が疑われる場合は、肝炎ウイルス検査を行います。肝臓の繊維化や肝炎の活動性をみるためには、血液検査のほかに肝生検を行うことがあります。これらと合わせて超音波検査やCT検査といった画像検査により、肝臓の脂肪沈着の程度、肝がんの有無などを確認し、診断していきます。



職場の検診等で肝機能検査値の異常があり要指導・要検査と判定された方は、何かしら肝疾患が潜んでいる可能性がありますので、そのままにせず、一度ご相談ください。

当院では、肝臓専門医が画像検査や血液検査による精密検査を行っております。検査により治療が必要になった場合は、患者さま一人ひとりの症状に応じた治療法をご提案いたします。気になることは何でもご相談ください。

鹿児島県には「肝炎治療費助成制度」があり、治療のための助成金を支給しています（詳細は右記QRコードを参照）。当院は医療費の助成を受けるため医療機関となっています。



## 「鹿児島県肝炎医療コーディネーター」がいます！

当院には、各部署に「鹿児島肝炎コーディネーター」に認定されたスタッフを配置しております。

肝炎に関する患者さまやご家族からの相談、肝炎医療費助成などの制度の説明などのサポートをいたします。



## 主な肝疾患の種類と治療

### NAFLD/NASH (非アルコール性脂肪性肝疾患/非アルコール性脂肪肝炎)

日本では、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスが肝臓病の多くを占めていますが、最近では脂肪肝(\*1)に伴った「NAFLD/NASH(非アルコール性脂肪性肝疾患/非アルコール性脂肪肝炎)」が増加しています。

(\*1) 脂肪肝とは、肝臓に脂肪が過剰に蓄積した状態で、組織学的には肝細胞の30%以上が脂肪化している状態を『脂肪肝』といいます。

脂肪肝には、①アルコール性、②非アルコール性(NAFLD)があります。NAFLDの中で、肝硬変や肝がんへ進行する可能性がある脂肪肝をNASHといいます。

NASHの治療方法は現時点で確立されたものではなく、基本的に食事・運動療法となります。運動療法が無効な場合には薬物療法、徐鉄療法、外科的治療(減量手術、肝移植)等が行われています。

当院では糖尿病内科と協力しあい血糖コントロールを含めたメタボリックシンドロームに対する治療と並行して食事療法と運動療法を行っております。食事療法に関しては管理栄養士による食事指導を行い、運動療法に関しては併設する運動施設での運動療法も案内しております。

### C型肝炎

C型肝炎は、感染している人の血液や体液を介してC型肝炎ウイルスに感染することにより起こる病気です。C型肝炎は慢性化しやすくC型肝炎ウイルスに感染した人の約7割が慢性肝炎を発症し、放置しておくと肝硬変、肝がんへと進展することがあります。

近年、C型肝炎の治療法は進化しており、「インターフェロン療法+飲み薬」が主流だったのが「飲み薬のみ」となり、内服期間は8週間~12週間程度となっています。これまで治療が困難だった方も、この飲み薬の治療についてご相談ください。

### B型肝炎

B型肝炎ウイルスは、主にウイルスに感染している母親から、生まれた子供への感染と、刺青・針刺し事故や性交渉などで感染します。ほとんどの場合、一過性で自覚症状もでにくいため気づかないうちに終息しますが、まれに劇症肝炎など、症状が重くなることもあるため注意が必要です。一方、3歳までの乳幼児期にB型肝炎ウイルスに感染すると慢性肝炎へ移行します。B型慢性肝炎の場合は、ウイルスを体から排除することはほぼ不可能ですが、治療により肝硬変への進展や発がんをおさえ、日常生活を送ることは可能です。

治療法は、インターフェロン療法やウイルスの増殖を抑制する抗肝炎ウイルス薬(飲み薬)を投与する方法があります。当院では、抗肝炎ウイルス薬(核酸アナログ製剤)の投与を行っておりますのでご相談ください。

# 診療実績

## 胃カメラ

### 上部消化管内視鏡検査数(件)



胃カメラは、月平均11件の増加となりました。  
6月は109件と大幅に伸びました。

# 腹部エコー検査数の増加

### 腹部超音波検査(件)



腹部エコーなどの検査には、日本超音波医学会認定超音波検査士(消化器領域・循環器領域・泌尿器領域・検診領域)が対応するようになり、大幅に検査件数が増加しました。  
在宅医療においてもエコー検査ができるよう対応します。

## 大腸カメラ

### 下部消化管内視鏡検査数(件)



大腸カメラは、月平均9件の減少でした。  
1月の44件以外は、前年より少なくなっています。

### CT検査数(件)



CTの検査は、月150件程度のペースで推移しました。  
前年より40件増加しています。

### 内視鏡的ポリープ切除術(件)



この4年間で3倍と、大幅な増加となっております。  
・2019年 98件  
・2022年 297件

## 検査の時にカード決済もご利用ください!

外来診察代のお支払いに、クレジットカードをご利用いただけるようになりました。

クレジットカード決済には、スマホの「HOPE LifeMark-コンシェルジュ」のアプリを使用します。  
※アプリの登録には、初回のみ、受付発行のQRコードによる事前登録が必要です。受付にお申し出ください。



- 「HOPE LifeMark-コンシェルジュ」のホーム画面から
1. キャッシュレス決済を選択
  2. 事前に登録されたメールアドレスに「Stripe」から決済の案内が届く
  3. 支払い方法を選択し、決済

アプリのダウンロード方法など、当院のホームページに情報を掲載していますのでご利用の前にご覧ください。右のQRコードからご覧いただけます。



# 在宅医療の強化へ

当院は、2022年5月より下記のような基準を満たし、

## 「機能強化型在宅療養診療所（単独型）」

となっております。



### 【在宅療養支援診療所の施設基準】

- ・ 24時間365日体制で医師や看護師と連絡が取れる
- ・ 24時間365日体制で往診、訪問看護が可能
- ・ 緊急時に入院受け入れ可能、または連携医療機関への入院手配ができる
- ・ 地域の保険医療機関や福祉サービスと連携をとっている
- ・ 在宅医療を担当する常勤の医師が3名以上配置されている
- ・ 過去1年間の緊急の往診の実績が10件以上あること
- ・ 過去1年間の在宅における看取りの実績が4件以上ある など

## 01. 訪問診療の対象になる患者様とは？

原則的に通院が困難な方が、保険診療での在宅医療の対象となります。月2回の訪問診療を基本としております。

末期がんなどで、ご自宅での療養を希望される方、終末期の疼痛ケアや栄養療法などを自宅で継続することを希望される方また、以下のような医療を受けているため入院療養を続けている患者様でも、ご自宅での療養が可能です。詳しくは当院へご相談下さい。

- 経管栄養、胃ろう・腸ろうからの栄養管理
- 中心静脈栄養法、点滴管理
- 在宅酸素療法・気管カニューレ交換
- 外傷・褥瘡の治療
- 尿道留置カテーテル
- 末期ガンの疼痛・麻薬管理
- 抗がん剤（内服）の治療継続
- 予防接種

## 02. お薬の処方を行います



院外処方となります。お近くの薬局でのお受け取りか、薬剤師が訪問してご自宅で受け取ることもできますので、ご相談ください。ただし、処方箋には期限がありますのでご注意ください。

## 03. 居宅療養管理指導をおこないます

訪問診療や往診時に患者様、またはご家族へ診察の結果を説明し、医学的観点からアドバイスいたします。ケアマネージャーやサービス担当事業者へ情報提供いたします。



～在宅医療をより丁寧に  
より安心をお届けする～



## 04. 訪問診療と訪問看護の連携

退院支援、日常の療養支援、急変時の対応、看取りなど、訪問診療の医師と訪問看護師が連携をとらなくてはならない場面があります。

当院は、メールや電話で速やかに医師に連絡を取り、患者様の状況を共有しています。スピード感を特に重要視しています。患者様への迅速な対応につなげています。

また、月1回の在宅カンファレンスを行い、治療方針などの検討を行っています。



## 05. 夜間や休日の急患への対応



夜間・休日等に具合が悪くなった場合でも、  
お電話で**24時間365日**、いつでもご連絡ください。

状況に応じて、病院への救急搬送、看護師訪問、臨時往診等の適切な対応をとらせて頂きます。  
入院が必要である場合は、速やかに入院調整を行います。

## 06. 訪問診療の費用について

在宅医療にかかる費用は、医療保険で取り扱われます。保険の自己負担率および訪問回数により異なりますので、詳しくは当院の医療ソーシャルワーカーへお問い合わせ下さい。

身体障害者手帳などをお持ちの方は、医療費の助成が受けられる場合がありますので、必ずお申し出ください。

## 07. ご利用までの流れについて

### 1. 当院へのお電話

ご自宅で療養されている方は、当院に直接お電話いただくか、かかりつけ医、ケアマネージャーや訪問看護師等にご相談のうえ、ご連絡ください。

### 2. ご説明と契約

訪問診療、往診のご説明と保険証等の確認をいたします。

### 3. 訪問診療の開始

